



パンデミック感染症の時代、大学は何ができるのか、 考えていきましょう！

札幌近郊では一日の新コロナ感染確認者数が10人を割る状況になってきましたが、医療機関・介護施設では引き続き厳しい状態が続いています。全国的には感染確認者数が減少し、地域によっては確認者数ゼロの日が続き、緊急事態が解除されました。これからの感染をどう防ぐかという具体的な手だてが議論されるようになりました。

感染拡大防止の基本は「三密を避ける」ことという認識が共有されていますが、大学教育の現場において三密回避は容易ではありません。とりわけ、実験・実習など現場での体験が大事なカリキュラムを中心に手探り状態が続きます。教育と並ぶ大学の社会的使命である研究分野でも、さまざまな制約が出ていますが、ここでは新型コロナウイルスのような社会的問題に対する情報発信が求められているのではないのでしょうか。研究者個人が専門分野で成果を発信するだけでなく、知恵を出し合い大学として有用な情報を提供することは、大事な大学の地域貢献です。多くの情報が飛び交いその信頼性が問われる中、学問の場である大学が科学的根拠に基づいて適切な情報を発信することの意義は大きいものです。

大学の多くの研究者がこれを機会に地域社会に目を向け住民の暮らしを守るために力を発揮できるような体制をつくることは、大学の使命ともいえるでしょう。北海道大学の教職員に今何ができるのか、それぞれの分野で考えていること、疑問に思うことなどをこれから機関紙「ほくだい」でリレー掲載していきたいと思えます。皆様からのご意見・ご提案、そして素朴な疑問もお待ちしています。（執行委員長・山形 定）



2020年度北大組合定期大会

8月1日(土) 開催予定

組合員のみなさん、奮ってご参加ください！

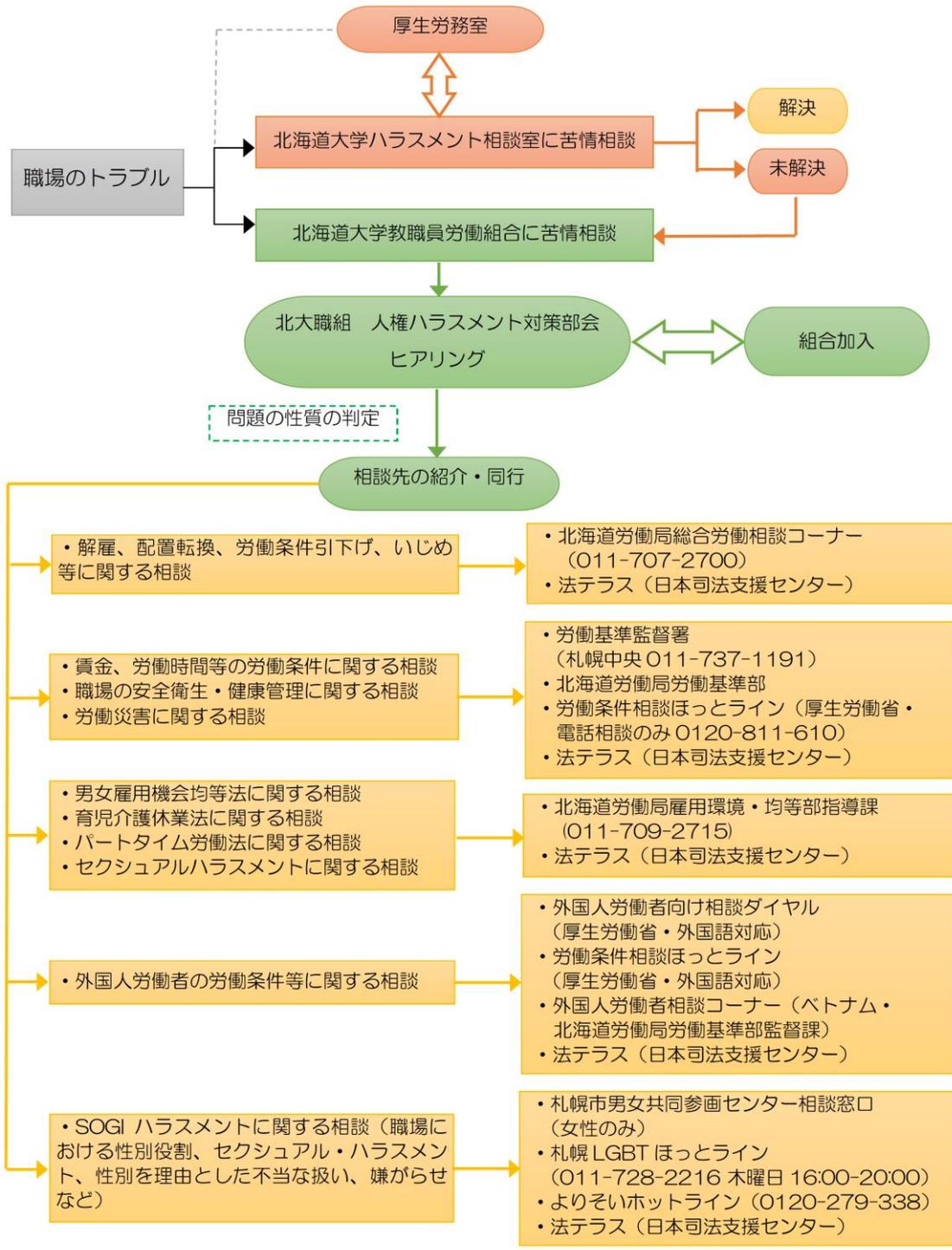
組合の運営は、組合員一人一人の力を合わせる事が大事です！

次期組合の運営を担う執行委員をなさる方、大募集します！

みなさん、北大職組に「人権ハラスメント対策部会」があること、知っていますか？本部会は、パワハラやSOGI（性自認・性指向）ハラスメント、人種・民族、国籍、宗教、信条、門地、身分、または障がいに対する学内での個人・組織的差別・ハラスメントに対して相談を受け対策を講じる組織です。部会に加わって取り組みたい方は、書記局にご連絡ください。



職場で理不尽なことに遭っていませんか？それはもしかして、あなたが悪いのではなく、ハラスメントかもしれません。
人権ハラスメント対策部会があなたと一緒に解決策を探っていきます。
まずは、書記局に連絡してみてください！



人権ハラスメント問題対策部会 相談フローチャート